

✈ 海外生活 だより

シンガポール事務所

シンガポールのアマチュア オーケストラに入団しました！

シンガポール事務所 所長補佐 原田 圭子（山口県山口市派遣）

シンガポールのアマチュア オーケストラに入団

シンガポールに赴任が決まった時から趣味のチェロを続けるために、シンガポールのアマチュアオーケストラに所属しようと心に決めていました。

インターネットでシンガポールのアマチュアオーケストラを検索した結果、「Braddell Heights Symphony Orchestra (BHSO)」が団員募集のご案内もあり、楽器歴といった必要事項をサイトに記入すれば、すぐにでも入団できそうだったので、入団前にオーディションを受けなければならないという記載が気にはなったものの、何とかなるだろうと楽観して連絡を取りました。

オーディションの結果は、日ごろの練習不足を露呈するものでしたが、オーケストラの経験があるということで、何とか入団を許可していただき、めでたくシンガポールでもアマチュアオーケストラ活動ができることとなりました。

恵まれた練習環境

練習は毎週日曜日の15時から18時までであり、会場は地域のコミュニティセンターでした。

その練習環境は、オーケストラが余裕で入る広さの練習会場に加えて、専用の事務室まで完備されていて、パート練習でもアンサンブルでも、希望すれば自由に練習することが可能となります。さらに、元々所属していたオーケストラでは、運営に必要な経費を団員の負担で賄っていましたが、BHSOでは国からの補助が手厚く、会場費、ソリストの出演料、その他諸経費に至るまですべ

て援助されているため団員の負担は必要ないとの話です。

コンサート当日の運営についても、会場の専属スタッフが手配してくれるため、団員は演奏するだけで済んでしまいます。日本のオーケストラでは練習計画からコンサートの運営、会計までのすべてを多くの団員で分担していたことを考えると、裏方として支えてくれるスタッフがいるBHSOは夢のような話です。

年4回の演奏会

毎週練習して年に1～2回の演奏会であれば、1回のコンサートに入念な時間をかけて作り上げることが出来ると思いますが、BHSOでは年に4回演奏会を開催します。年に4回となると、3か月に1回は本番がある計算となり、毎週の練習がとても大切なものとなっています。

元々所属していたオーケストラでは15時が練習開始時間の場合、1時間前には開場して、椅子や譜面台のセッティング、音合わせを済ませた上で、15時に指揮者が棒を振り下していました。また、



練習会場のコミュニティセンター



事務室に飾られている過去の演奏会資料

管楽器のように一人1パートの場合、練習を欠席する時は代理を手配することを約束事としていました。

シンガポールでもその状況は変わらないだろうと思っていたのですが、初めて練習に参加したとき、開始時間になっても人があまり集まらなかったこと。そして、本番直前にならないと全パートが揃わないといった状況には驚き、団員の練習出席状況は少々酷いものだと思わずにはいられませんでしたが。しかしながら、練習中に指揮者の先生に注意される事や演奏する際の課題は国境を越えても変わらないため、一つの曲を全員で本番に向け弾き込んで発表する形態ではなくても、演奏会当日にはなんとかなってしまうことにBHSOの底力を感じます。

また、BHSOの各演奏会にはそれぞれテーマがあり、交響曲はもちろんのこと、ソリストを招くことも多く、前は「Voices in Harmony」として、4人のソリストを招いて歌曲を演奏しました。オペラの小曲とともに、中国語の歌曲がコンサートの半分を占めたことがシンガポールならではのようです。

別の演奏会のテーマとしては、年に1回は若手のソリストの演奏の場ともされており、どのような奏者が来るのか今からとても楽しみです。

今後のBHSO

1986年に創設されたBHSO。団員はシンガポール人だけでなく、日本人も含めた国際色豊かな

オーケストラです。駐在期間のみ参加される方も多く、団員の入れ替わりが激しいため、演奏のレベルを維持することはかなり大変だと思います。

仕事の都合や、楽器経験者の絶対数が少なく、様々な団体を掛け持ちしているためにBHSOの練習に来られないという状況もあるようですが、その状況の改善と、更なる演奏技術の向上を求めて、入団のためのオーディションを始めたり、団員同士の協議の場を設けたりしています。他のオーケストラでは団員の紹介がないと入れないとの話も聞いています。私自身が楽器を始めて半年程度で日本のオーケストラに入団し、オーケストラでの活動が楽しくて楽器を続けることができた事もあり、オーケストラに興味を持った誰もが参加できるBHSOの良さは変わらないでほしいと思います。

今では、オーケストラに限らず、チェロアンサンブルをはじめとした室内楽の練習も始めました。今後室内楽のコンサートを開催する予定もあり、練習は大変ですが、音楽を通して貴重な経験を得られること、人の輪を広げることができることは本当に幸せなことだと思っています。ただ、その広げ方が、オーケストラの練習に参加するだけでなく、練習後やコンサート後に、ごはん会や反省会をセットとして考えていたのは、まっすぐ家路につくシンガポール人と比較すると、もしかして日本人独特の発想なのかと考える今日この頃です。



演奏会のチラシとパンフレット